

こんにちは。それでは、曹洞宗総合研究センター公開研究会の開会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は大勢の方に御参加いただき、まことにありがとうございます。

また、この研究会の開催に当たりまして、御協力いただきました相国寺寺史編纂室研究員であり、本日の講師の藤田和敏（ふじたかずとし）先生に厚く御礼申し上げます。

私ども曹洞宗総合研究センター内にあります近現代教団研究部門が中心となり、この公開研究会は、多くの方々に近代曹洞宗史及び思想に対する理解を深めていただくことを目的として、昨年度より開催しているものでございます。

同研究部門は古山健一主任研究員を中心として、「近現代の曹洞宗教団と人権問題研究会」「近現代の曹洞宗教団と布教教化研究会」「僧堂教育の歴史的研究会」の3つの研究会が毎月1回の研究発表を行い、近現代における本宗の社会的動向に関する調査及び研究に、日夜取り組ませていただいております。

本日の公開研究会は「近現代の曹洞宗教団と布教教化研究会」を中心とし、テーマを「明治後期～大正期における禅宗の布教と社会活動方針について-樋口琢堂と大内青巒-」とさせていただきます。

曹洞宗は明治23年に『修証義』を公布し、近代における在家布教教団としての新たな一歩を踏み出しました。以降現在に至るまで、宗門内外におきまして、その『修証義』を中心とした近代曹洞宗史及び近代曹洞教学研究が進められているのは、御存知の通りです。

曹洞宗の動向を検証していく中、時代背景考察は必須であり、その作業の一環として、他宗派ではどうであったのか、曹洞宗と全く同じなのか、宗派ごとに特色はあるのか、を探る必要性を感じるに至ったのです。

そこで、御著書『明治期の臨済宗-宗政家と教団運営-』『悲劇の宗政家 前田誠節』、そして今回の公開研究会開催のきっかけとなりました『樋口琢堂と和敬学園 大正～昭和戦前期仏教社会事業の実態』を出され、意欲的に活動されている藤田先生にコンタクトを取り、上記疑問解明に向けての御示唆を頂戴できればと考えております。

藤田先生のご著書を拝読させていただき、樋口琢堂の活動は、「衆善」を標榜している禅の教化活動ですが、公民教育という日露戦後の政府方針を濃厚に反映している部分があって、社会活動的だと感じました。公開研究会後半の研究報告やパネル・ディスカッションでは、その辺りについて議論されるものと期待しております。

最後になりましたが、本日の公開研究会が、今後の近代曹洞宗史及び近代曹洞教学研究活動のヒントとなり、ますますの研究発展の一助となれば大変うれしく存じます。

研究会の盛会を祈念いたしまして、簡単ではございますが、開会のごあいさつとさせていただきます。